

あたって ご挨拶



東通村長 越 善 靖 夫

新年、明けましておめでとうございます。

平成二十五年の新春にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

村民の皆様には、平素から村政の各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、経済不況が続く中で、国政では、年末に、衆議院議員総選挙が行われ、政権が変わるといふ大きな変化がありました。また、大震災の復興は、一日でも早く誰もが切望するところでありましたが、思いのほか進展が見られず、被災者は今もなお大変な日々を過ごしておられます。災害に見舞われた方々に対して改めて心よりお見舞い申し上げます。

ところで我が村は、原子力発電所との共生により各種の振興対策を着実に進め、将来に希望を抱く村民の強い期待にこたえて参りましたが、福島第一原子力発電所の事故以来、エネルギー政策の在り方を巡って大きな影響を受けております。福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、前政権の民主党は、エネルギー政策を白紙から見直すこととして検討を進め、九月の「エネルギー・環境会議」において、「革新的エネルギー・環境戦略」を決定しました。最終的に原子力ゼロを可能にするとしておりますが、何年までに、どのようなプロセスを経てゼロにするのか、山積する課題に対して具体的にどう対処していくのか、非常に曖昧でありました。現在、日本国内の原子力発電所は二基を除き、全て停止しております。このため、当村はもろろんのこと各立地地域では、原子力関連の雇用が大幅に減少し、地域経済は大打撃を受け、我が村の経済に大きな影を落しております。

東通村は、電力消費地へエネルギーを供給するという責任と誇りを持って、昭和四十年から一貫して原子力発電所の立地に村を挙げて協力して参りました。福島第一原子力発電所事故の経験を踏まえ、安全性はより向上していくものがあり、国において、安全性が確認された原子力発電所は速やかに再稼働すべきと考えております。新

政権の元で、村にとって大きな意味を持つ「原子力政策」が前進することを大いに望むところであります。

ところで、町村は過疎化や少子高齢化が深刻化しておりますが、依然として回復の兆しが見えない経済不況の中で、失業率の上昇、地域産業の衰退や税収の減少などが続いております。こうした中、我が村の第一次産業は、農業は二月の記録的な豪雪のため消費が遅れ、水稲は平年より一週間程遅れの田植えに留まり、大変心配されましたが、直接的な台風などの被害もなく、その後は天候に恵まれ、作況指数は一〇六となりました。そば、大豆の野菜なども平年に比べ収穫量も多く、良好な結果になりました。畜産業は、福島での原子力発電所事故による影響や、鳥インフルエンザ、口蹄疫などの伝染病の影響が心配される中で、枝肉市場での価格の低迷がありましたが、「東通牛」は安全性が高く、限定的ブランドとしての評価は高く、子牛の生産については、県平均価格を上回る市場価格の取り扱いをされたところでもあり、全国和牛能力共進会での上位入賞に繋がったものと思っております。漁業においては、主力のサケ、イカ漁は海峡では順調な時期もありましたが、海水温が異常に高かったため、ホタテ、昆布も不漁となり、漁業者におかれましては、大変厳

しい一年であったと伺っております。

村としては、第一次産業の振興・発展のため、漁港・漁場・道路等の整備の充実を図るとともに、教育、福祉、医療を重点的に推進して参りました。教育改革については、保育園の開園を果たし、幼小・中の一貫教育の基盤が整ったところではあります。また、福祉については、民間により東通村特別養護老人ホームがこの夏のオープンを目指して工事が進められております。また、念願でありました泊・白糠バイパスのトンネルが年末に供用開始したことも含め、避難道路の確保にも意を用い、大震災の教訓を踏まえ、津波に対するハザードマップの毎戸配布や海拔標識設置を実施し、防災体制の整備促進を図っております。

東通原子力発電所の運転再開と工事再開の目途も立たず、非常に厳しい経済環境、行財政状況は続きますが、私としては、この難局を乗り越え、将来の東通村の基盤を、皆様と一緒に確実に整えて参らなければならぬと思っております。ですので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年に当たってのご挨拶と致します。